

令和2年度 第1回 農業研究センター（本部）所長表彰 受賞者一覧

	所属		職	氏名	表彰区分	事績 該当号	事績の内容
1	企画管理部	研究企画室	主査 専門研究員	阿部 敦	グループ	第4号	<b>【無線LAN設備の整備とWeb会議システムの構築・運用】</b> ①農業研究センター内の主要箇所、無線LAN設備の整備を図り、勤務する職員の情報システム活用と、会議で来所する県民へのサービスの向上に貢献した。 ②新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う対策として、リモート会議の需要が高まったことから、県の行政情報ネットワークのWeb会議システム、Microsoft Teams、Zoomなど、各種のWeb会議システムを利用できるよう体制の整備を図るとともに、職員へのシステムの紹介や利用に当たっての設定の支援など、きめ細かなサポートにより、円滑な業務の推進に貢献した。
			主任 専門研究員	伊勢 智宏			
2	企画管理部	農業経営研究室	室長	前山 薫	グループ	第1号	<b>【生産技術体系データ（2020年版）の作成】</b> 平成22年度に電子データとして策定された生産技術体系について、利用者である普及センターのニーズ調査や新たな技術等の導入状況を踏まえ、各地域の事例調査やデータの収集、生産技術体系・営農類型策定ワーキングチームでの検討を経て、着手から5年をかけて、10年ぶりに本格的な見直しを行い、計107体系（うち、更新85体系、新規22体系）のデータを再整備した。 この生産技術体系データは、研究成果としてとりまとめ（行政区分）、今後、農林水産部から公表され、経営試算、営農類型の作成等に活用される。
			主査 専門研究員	○ 吉田 徳子			
			主査 専門研究員	藤澤 真澄			
			技師	小向 昌啓			
3	園芸技術研究部	果樹研究室	主任技能員	菊地 徳章	グループ	第4号	<b>【部を越えた連携による効率的技能業務の展開】</b> 園芸技術研究部では技能員1名が急遽欠員となり、1名で4室の技能業務を担当せざるを得ない状況となった。 そこで、園芸技術部研究部と生産環境研究部で話し合いを重ね、欠員が解消されるまでの期間生産環境研究部に所属する技能員2名の協力を得ながら園芸技術研究部の業務を支援する体制を整えた。 以上の取り組みにより、研究活動の円滑な実施につながっている。
	生産環境研究部	土壌肥料研究室	主任技能員	小黒澤清人			
		病理昆虫研究室	主任技能員	佐藤 広昭			
4	生産環境研究部	病理昆虫研究室	上席専門研究員	中野 央子	個人	第1号	<b>【水稻高密度播種苗移植栽培に適した葉いもち・初期害虫の防除方法の解明】</b> ・水稻栽培におけるコスト低減手法の一つとして、高密度播種苗移植栽培の導入が進んでいる。 ・候補者は、この栽培に適した葉いもち及び初期害虫の防除方法を検討し、移植時の薬剤側条処理が有効であることを明らかにした。 ・この成果は、農業普及員やJA営農指導員の現地指導に活用されるものであり、高密度播種苗移植栽培における安定生産を通して、その効果の発揮に貢献するものである。

	所属		職	氏名	表彰区分	事績 該当号	事績の内容
5	病害虫防除部		技師	○ 福田 拓斗	グループ	第1号	<b>【本県で新たに確認された2害虫の生態と防除対策をとりまとめ迅速な現地指導に貢献】</b> ①ねぎやたまねぎの重要害虫ネギハモグリバエの新系統による被害を、北海道・東北地方ではじめて確認した。 ②飼料用とうもろこしやスイートコーンなどを食害する暖地系害虫ツマジロクサヨトウの発生を本県で初確認した。 この2害虫の発生状況や形態的特徴、生態と防除対策を「令和2年度病害虫発生予察情報 特殊報」として取りまとめ、迅速な現場指導の実施に貢献した。
		主査	吉田 雅紀				
		主査	佐藤千穂子				

※1 表彰区分欄には、実施要領第2第2項に掲げる表彰の対象となった「職員等」の区分に応じて、次のとおり記載すること。

実施要領第2第2項第1号該当：個人

実施要領第2第2項第2号該当：機関

実施要領第2第2項第3号該当：グループ

※2 グループの成果に対し、中心的な役割を果たした者は、氏名の前に◎をつけること。

※3 該当号欄には実施要領第3各号のうち該当するものの号数を記載すること。

※4 必要に応じて、事績の内容に関する資料を添付すること。